

ちよつと涼しくなってきました

## 残暑も終わりそうです

これを書いているのは九月五日です。九月に入ってから朝晩ずいぶん涼しくなり、日中の気温もやや低くなり始めました。そろそろ厳しかった残暑も終わる気配を見せています。だいぶ過ぎやすくなりました。皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。暑かった夏に受けた体のダメージが出てくる季節です。体がだるかったり、気力がわかなくなったりと、夏ばての症状が出てきたりします。そういうときには、十分な栄養を摂って、体を休めることも大切です。実りの秋に向けて、体調を整えていきましょう。



## 神社うんちく帖

さて、今回も前回の続きとして、神さまたちのお話です。「天御中主神」が現れてから、神さまたちが次々とお出ましになります。

### ◆「世界」を生み出す神さまたち

まずは『古事記』からのご紹介。天御中主神に続いて次に高天原に現れたのは、「高御産巢日神（たかみむすびのかみ）」という神さまです。

この高御産巢日神は、名前の中に「産霊（むすひ）」という言葉があります。これは日本語の「結ぶ」と通じており、高御産巢日神はこの世界を「結ぶ」神さまで、「すべてのものを生み出し生成する力」そのものです。

高御産巢日神に続いて高天原に現れたのは、「神皇産霊神（かみむすびのかみ）」という神さまです。こちらもその名に「産霊」という言葉があるように、「万物を生成する働き」そのものです。

この二柱の神さまたちは、農耕に深く関わっていると考えられ、皇室の祭祀においても重要な神さまです。

天御中主神、高御産巢日神、神皇産霊神の三柱の神さまは、「造化三神」とも呼ばれ、性別はなく、すぐにお隠れになったとされています。

### ◆「高御産巢日神」は実は最高司令官

『古事記』を紐解いていくと、高御産巢日神はのちの物語の中にもちよくちよく現れます。なかでも、かの有名な「天孫降臨」の際には、

天照大神とともに高御産巢日神（別名・高木神）が高天原の神さまたちと話し合い、最終的に天津日高日子番能邇邇藝命（あまつひこひこひこほのにぎのみこと）いわゆる「ニギノミコト」を葦原中国（日本）に遣わす詔（みこと）のり・命令）を出します。

つまり、高御産巢日神は高天原の最高司令官だったりします。

これは大和朝廷が平安時代に編纂した『正統な歴史書』とされている『古事記』でも『日本書紀』でもほぼ共通した記述です。

### ◆高御産巢日神が皇祖神？

天照大神が「最高神」またはこの国の「主神」、そして「皇祖神」として祀られたのは、大和朝廷が支配を強めてからのこと、おおよそ天武天皇の御代、飛鳥時代あたりからという説が有力です。

しかし、その時代よりもあとに書かれた『日本書紀』の第九段においては「皇祖高皇産霊尊」という記述もあり、高御産巢日神ははつきりと「皇室の祖霊神」として扱われています。